

第7回 第2次瀬戸市教育アクションプラン推進会議 議事録

日 時：平成30年5月29日（火）午後3時から午後4時15分まで

場 所：瀬戸市役所4階大会議室

出席者：

<会長>上川 和子

<副会長>吉田 淳

<委員>一尾 茂正、太田 亜衣、加藤 高明、加藤 直樹、西原 勇、深見 和博、福岡 明、福田 直美、船坂 礼子、水谷 友里、弓削 善靖、和佐田 強（50音順）

<オブザーバー>田口 浩一（スポーツ課長）、上田 喜久（社会福祉課長）、磯村 玲子（こども未来課長）、田中 伸司（健康課長）

<事務局>涌井 康宣（教育部長）、松崎 太郎（教育政策課長）、白木 秀典（学校教育課長）、原 充弘（教育政策課主幹）、阪本 有一（学校教育課主幹）、中桐 淳美（図書館長）、渡邊 康雄（学校教育課専門員兼指導主事）、幸村 弘美（教育政策課企画係長）、水野 華（教育政策課主事）

議事録：

（会長挨拶）

今年度も1年が始まり、初めてお会いする委員の方との初めての会議である。学校では、子どもたちも落ち着いて勉強やスポーツに励んでいることと思う。新しい小中一貫校の名前も決まり、工事も始まり、これから細かい部分を地域の方と共に作り上げていく時期である。4 その他 では、その小中一貫校に関して、皆様のそれぞれの立場からのご意見、ご質問をいただけたらと思っている。よろしく願います。

1 新任委員の紹介

教育政策課長より、資料1に基づき4人の新任委員を紹介。

2 依頼事項

事務局より、「瀬戸市教育員会の活動の自己点検・評価報告書作成のための意見調査について」依頼・説明。

○委員

委員の方々のそれぞれの立場からの思いが、委員の意見・提言の部分に、反映さ

れるといいと思う。

3 報告事項

- (1) 平成 30 年 5 月 1 日現在の児童生徒数について
教育政策課長より、資料 2、2-1 に基づき概要説明。
- (2) 小中一貫校建設工事に向けたスケジュール等について
教育政策課長より、資料 3 に基づき概要説明。
- (3) 「キミチャレ 2018」について
教育政策課長より、資料 4 に基づき概要説明。

○委員

キミチャレについて、今まで「君も今日からチャレンジャー」という副題がっていたが、それだと日頃の子供たちのチャレンジに大人が見落としているように子どもが感じてしまうのではと危惧していた。今回の資料では「キミチャレ」としか書いていないので、よかったなと思っている。

○副会長

瀬戸市在住で市立小中学校以外に通学している児童生徒数について、公立小学校 9 名の内訳はどのようになっているか。

○事務局

後ほど確認します。おそらく、越境入学ではないかと思われる。

4 その他

○会長

冒頭でご案内しておりますが、お時間の範囲内で委員のみなさまとの意見交換をさせていただきたい。テーマについては事務局からも報告があったが、再来年開校をいたします「にじの丘学園」の工事スケジュールも明確になり、いよいよ開校に向けソフト面も含め肉づけをし、盛り上げていく段階に入っている。私はそこに通うであろう子ども達だけが当事者ではなく、瀬戸市に初めて小中一貫校ができるということで市民全体が当事者であるという意識を持っている。皆様にも、当事者としての意見を頂けたらと思っている。瀬戸市の教育もそうですが、瀬戸市の教育の礎・アクションプランの柱の一つである「生き抜く力」を踏まえて、本日はにじの

丘学園の教育について盛り上げるためのご提案があれば伺いたいと思っている。

○教育長

瀬戸市では平成 13 年に「すべての子供たちが～」という教育理念の大きな柱を持っており、それに加えて、夢や希望を持って努力する「生き抜く力」を身につけること、失敗にくじけない心の強さを持つこと、思いやりのある優しい心を持つことを四本柱として瀬戸の教育は行われてきた。教育長が変わったら教育方針が変わるということではなく、これは四半世紀にわたる大きな柱であると思っている。

それから、昨日新しい小中一貫校の安全祈願祭が行われた。いろいろな困難があったが、やっとここまで来た、という思いである。先ほどスケジュールの中にもあったが、工事が始まると 1 年強で建物が完成する。これはすごいことである。ソフト面を見ると、教育というのはとても長い時間がかかる。これから目に見える形で、瀬戸の教育の施設・姿が変わっていく。そうすると、瀬戸の教育の雰囲気が変わる。教育面についても、教員だけではなく、瀬戸市全体が教育の当事者であるということ念頭に、「作り上げる」という観点からいろいろな意見を出していただきたいと思っている。

○副会長

7 校が統合されるにあたり、子ども・保護者は毎日のことなので慣れるのは早いと思われる。一方で、地域の方がどのように新しい学校を自分たちの学校として認め、協力をいただくのかが課題だと思われる。新しい学校ができた時に、なんらかの手を打たないと、昔の校区の括りから離れられない人が出てくるのではないかと心配している。完成までの期間、または完成してからの 1 年間くらいに、そういった方に理解をいただけるような方策を積極的に打つ必要があると考えている。

小中一貫校としての特徴のある教育、行事を考えていただくことも必要かと思われる。小学校 1 年生から中学校 3 年生が通う中で、非常に遠い地区から時間をかけて通う子どもも出てくる。その時に高学年の子が「同じ学校に通うのだ」という認識を持って、助け合って協力し合っていくという立場で意思疎通をはかっていくことが必要であると思っており、そのような意識づけの手立てを意図的に行う必要がある。また子ども同士だけでなく、保護者、地域の方からも、子供の安全を含めてサポートしていただける体制が必要だと考えている。

○委員

去年から、新設の学校を訪問し中の様子や設備を見る機会があった。つい最近も春日井の学校に行ったが、やはり廊下を歩いているだけでも風を感じ、設計を含め

新しさを感じた。それから、自分が過ごしてきた学校とは匂いも違うし、廊下も木材できており広く、教室も広いしワークスペースもある。新しい学校では、地域と共にある学校がうたわれており、内覧会のような、新しい学校を広く目の当たりにする機会があれば、保護者も地域の人も子ども達を安心して通わせることができるのかなと思った。

加えて、最近新潟市で痛ましい事件が起こった。通学路で最後 1 人になった子どもが襲われたということだが、双子や三つ子でない限り、どうしても通学路で最後の 1 人は発生してしまう。学校の中だけが安全であればいいのではなく、通学路全体つまり地域全体が安全である必要があるが、その安全を全て学校側で確保するというのは不可能である。あのニュースを見るたびに、「子供が帰ってくる時間帯に、地域の人が外へ出たり、犬の散歩をしていることが日常化していればな」と思っていた。今、いろいろな地域で見守りボランティアをしていただいているが、小中一貫校では、また新しい地域が生まれるため、見守りの仕組みも皆さんで考えていく必要があると考えている。

○委員

私は、今回統合される 5 地区の方々が、1 つの新しい学校を通して出会い、協働の意識を持ち新しい地域となっていくのではと感じている。もちろん難しさもあると思うが、わくわくした気持である。PTA にしても地域のお祭りにしても、他地区の活動を見ることは、子どもの視野が広がる経験となると思う。地域の方々も子どもと共に出会いと協働を楽しめる仕組みがあればいいと思う。

○会長

私自身 5 地区内に住んでおり、また地域の小中学校にも読み聞かせボランティアで入っている。各小学校にはいろいろなボランティアの団体があり、地域の小中学校で活躍している。私は、学校が始まる 4 月のその日からボランティアが活動できなければいけないと思っており、今各地域で別々で活動しているその人たちが 1 つの学校で活動することを考えると、やはりその人たちを繋ぐ仕組みが必要だと感じている。

○委員

幡山地区は各種さまざまな団体があるが、それらすべてをひっくるめて、子どもたちを育てる「育成会」として定期的に集まって、自治会や少年センター、社協、PTA の OB の方々と、地域の情報を共有・話し合いをする機会を設けている。育成会が始まった経緯は、幡山中学校在生徒指導上厳しい時期があり、その時期に地域の

中で PTA 役員 OB でもあった方が「みんなで情報を共有し合って、できることからやっ
ていこう」と声掛けをして始まったと聞いている。地域の方にすべての負担をかけ
るわけにはいかないと思うので、行政の側からの投げかけが必要ではないかと感じ
ている。

また先ほど新しい校舎の話が出たが、例えば幡山地区の保護者の方が新しい校舎
を見て、自分の地域の学校を見た時にどう思うか、新しい学校ができない地域の人
間としては少々心配している。今後市内全域で小中一貫教育を推進していく中で、
ソフト面については学校側ができることからどんどん積極的にやっていくことがで
きるが、ハード面は学校側の努力だけでは難しい問題がある。そういったところ
にも、小中一貫教育への心意気が現れると思うので、市民の方に「瀬戸市は新しい学
校のことだけ考えているわけではないんだな」と理解していただけるような取組が
あるといいと思う。

○会長

小中一貫教育を 9 年間受けた子どもたちがどんな風に成長するのか、保護者や地
域の方は大変興味を持っている。中学校卒業以降のためのステップとしての 9 年間
という意味もあるだろうし、子どもたちがいろいろなものを取り入れ、殻を破って
いけるよう育っていけるといいと思う。

○委員

情報発信について、多くの方に当事者となってもらうために、わかりやすい情報
発信を心がけていただきたい。教育に携わってきていない人から見ると「カリキュ
ラム」や「教育課程」という言葉も、わかりにくいと思う。知っている言葉でも意
図が伝わるかどうかも大切である。新しくできる小中一貫校は「にじの丘小学校」
と「にじの丘中学校」となっているが、これだと学校が 2 校できるように理解され
かねない。にじの丘学園の開校は、瀬戸市の教育をアピールする絶好の機会である。
1 人でも多くの人に瀬戸市の教育を考えていただけるような言葉の使い方、文字の
フォントを含めた発信の仕方を心がけていただきたい。

○委員

通学路、通学方法について、話題となることが多いと思うが、現時点ではどうい
う方向性でいるのか。また最長でどのくらいの距離があるのか。私自身の意見とし
てはできるだけ歩いたほうがいいと思っている。通学というのは一つの学びの時間
であり、学校で過ごす時間も登下校の時間も大切な時間である。

○事務局

様々地域があるので、地域ごとで話を進めているところであるが、まずは徒歩での通学をしていただきたいというのが基本的な考えである。委員が言われるように登下校中の経験について、また体力をつける意味でも歩くことは大切であるため、徒歩では通学が難しいという時に初めて路線バス等公共交通機関の活用が視野に入ってくる。最長距離としては2キロ程度である。

○委員

私自身田舎の学校に行っていたこともあるが、片道8キロ歩いて通っていた。初めは分校に行っていたが、分校までも3キロあった。最長2キロというと北みずの坂の人も西陵までそれくらい歩いて通っていると記憶している。当初はスクールバスの活用の話もあり難しいこともあると思うが、徒歩は徒歩で良い点がある。

また1つお願いだが、現在年長の幼稚園児の保護者の中に、隣接学校選択制廃止のことなどどうしたらいいかと戸惑っている方が多い。様々な形で情報発信していただいているかと思うが、結局、その問題に直面する方は全体の中の一部であるため、その方たちに届くような情報発信をしていただきたい。

○事務局

今年度から、わかりやすい情報をきちんと提供し、理解していただくために、学校の当事者であるPTAの方々に説明会を行っている。未就学児の保護者の方への情報提供についても取り組んでおり、隣接学校選択制廃止についても、ある地区へ出向き相談会を行ったところである。

○委員

案内の配布・掲示にぜひ幼稚園を使ってください。

○委員

7校が集まる小中一貫校なので、ソフト面で十分な情報を提供することが大切である。地域がまとまる時に一番簡単なのは、全体で盛り上がって取り組んでいくことである。

また先ほど委員の発言とは違って、私はにじの丘学園という9年間を通した学校ができ、日本の教育制度の中で小学校と中学校という括りがあるので形式的にその名前をつけているという理解でいる。運動会をどうするかとか、具体的なイメージが保護者に伝わっていないのではと思う。自分のイメージでは1年生から9年生まで全員でやると思っているが、細かいところを積み上げていかないと伝わりにく

いのかもしれない。

○委員

最近は自分の子どもが大きくなって小中学生の様子を知る機会が少なくなっているが、いまの7校の児童生徒たちの様子はどうか。

○会長

祖東中学校では、英語の先生が素敵な虹色の時計を教室に飾ってくださっていて、少しずつ学校の中でも小中一貫校ができるという雰囲気が高まっている。卒業生にも、祖東中学校はなくなってしまうわけではなく、よりよいものとして生まれ変わっていくんだということを、また今年の1年生に対しても「君たちは祖東中とにじの丘を繋ぐ最初の最上級生になるんだよ」ということを、日頃より先生から折を見て話していただいている。

○委員

私は光陵学区に住んでいて、そこでは「次は光陵なんじゃないか」という声が聞こえるようになってきている。光陵中学校はだいぶ人数が少なくなってきていて、各小学校も1クラスずつしかなく、また水無瀬中学校にいてしまう子も多く、隣接学校選択制が廃止になることで少しは人が増えるのではないかという期待もある。隣接学校選択制がよかったかどうかはわからないが、私は光陵中学校が超マンモス校だったころの卒業生なので、光陵中学校の生徒が少ないことはさみしく思っている。光陵ブロックの中でも小中一貫教育を行っていこうという話も聞こえているが、保護者の中には「まだ自分は関係ない」という思いを持っている方が多い。先ほども委員の発言にあったが、保護者にわかりやすい形で情報を提供していただければいいと思う。

○委員

現場の教員として、小中一貫校ができると知った頃はどこか他人事のような気持でいたが、今どの学校も小中一貫教育行おうとしている。瀬戸市として小中一貫校ができるということは大変大きな意味があり、逆に一貫校ができない地域では、「じゃあどのようにやっていこう」ということで、一貫校に負けない「魅力ある学校」を作っていけないといけないと実感した。

また私は前任校が祖母懐小学校で、今の中1の子を教えていた。今その子たちと話すと、新しい学校ができることを喜んでおり、初めての卒業生になることをとても楽しみにしているし、小学校1年生から新しい学校に通える子がうらやましいと

いう事も言っていた。ただ、同時に祖母懐小学校がなくなることもとても残念だと思っており、複雑な気持ちでいる様子だった。

○委員

6 か月検診の赤ちゃんに絵本を配っていると、5 地区のお母さんたちから「スクールバスは出るのよね」といった声が聞こえてくる。お母さんたちの情報というのは、お母さんたちの先入観が本当の話になって広がってってしまうので、保育園や幼稚園で正しい情報を伝えていっていただくことは大切だと思う。例えばバスに乗るなら「じゃあバスの乗り方を練習しないと」といった前向きな気持ちに繋がっていくはずなので、未就学児の保護者にも正しい情報を提供していくことが必要である。今はネット社会で、1 人のお母さんに正しい情報を伝えれば、正しい情報がすごいスピードで情報が伝わっていくので、それを利用するのも手である。

○委員

いろいろな子がいるのが義務教育で、どのような原風景を土台とした大人になってほしいのか、例えば「小中一緒に運動会したよね」「これ瀬戸っぽいよね」というような、子どもたちの中に共通のものとしてどんなものを残したいのか、ということを考えていくことが大切なのかなと思っている。誰もが受ける義務教育の中で、何か特別な子を育てるわけではなく、いろいろな子がいる中で、いろいろな人がいる社会の中での共通の記憶というものを思い浮かべながら取り組むのも大事なのかなと思った。

○教育長

この場は「あれがあったらいいな」ということを話し合うというよりも、子どもたちに何をしてあげられるかなということを考える場として、様々な示唆をいただいた。私も子どもたちは歩くべきだという考えを自論のように言っているし、またお母さんたちの情報はすごいという話があったが、お母さんたちの能力をきちんと受け止めて、的確に情報を伝えていくべきというアドバイスをいただいた。子どもはもちろん皆さんに正しい情報を伝えるためには、わかりやすさや、ユニバーサルデザインの発想がより大切な視点であるし、どう伝えていくかを考えながらスピーディーに進めていきたいと思っている。

5 その他

- ・事務局より連絡事項

次回日程は、7月25日（水）午後3時から4階大会議室にて開催予定